

言語学、はじめの一步（5）

長かった夏休みも終わり、再びキャンパスに活気が戻って来ました。皆さんはこの夏休みを、どのように過ごされましたでしょうか。図書館は8月13日～16日の間は休館していましたが、それ以外の日は基本的に日曜日を除いて開館していました。夏休みの期間中も、熱心に勉強する姿が見受けられました。今年の夏は暑かったので、涼しくて快適な環境が魅力的だったでしょう。この夏は図書館システムが一新されました。そこで気分を一新して、言語学の世界に足を踏み入れてみませんか？ 蔵書検索機能もパワーアップされているので、これを機会に是非。

Q：前回、前々回は音声学と音韻論についての話しでした。今回は形態論とはどのようなことを研究する分野なのかについて分かり易く解説していただきたいと思います。

A：形態論とは単語の構造を研究する分野です。ある単語に別の要素を付加して新たな語を造ることを語形成と言います。英語にrichという形容詞がありますが、この語の後ろに-nessという接尾辞を加えるとrichnessという名詞になります。また、richの前にen-という接頭辞を付けるとenrichという動詞が出来ます。このように接辞を付加して新たに造られた語は合成語と呼ばれます。

Q：合成語のどのようなことが問題になるのでしょうか？

A：例えばunfriendlyという形容詞があります。この単語はun-、friend、-lyの3つの要素から成っています。

Q：名詞friendに接頭辞un-と接尾辞-lyが加えられたわけですね。

A：そうです。ではここで問題です。この3つの要素が結合する順序は[[un+friend]+ly]でしょうか、それとも[un+[friend+ly]]でしょうか？

Q：どちらでもいいように思うのですが、順序があるのですか？

A：はい。順序があります。unfriendlyの正しい構造は[un+[friend+ly]]です。英語にはfriendlyという単語はありますが、unfriendはありません。つまり、[friend+ly]でまずfriendlyという形容詞が造られ、その後[un+friendly]でunfriendlyという別の形容詞が造られたというわけです。

Q：なるほど。

A：もう一つ面白い例を挙げましょう。辞書で形容詞unlockableを引くと、(1)「錠を掛けることができない」、(2)「錠を開けることができる」という二つの意味が記載されています。なぜ二通りの解釈が出来るのでしょうか？

Q：やはりun-、lock、-ableという3つの要素の構造が関係しているわけですか？

A：そうです。先ほど取り上げたunfriendlyはfriendlyという単語はあるが、unfriendという単語は存在しないということでした。しかし、unlockableの場合はlockableという形容詞もありますし、unlockという動詞もあります。つまり、(1)の意味は形容詞lockable（錠を掛けることができる）に否定の接頭辞un-が付加された構造、つまり[un+[lock+able]]と分析され、(2)の意味は動詞unlock（錠を開ける）に形容詞派生接尾辞-ableが付加された構造、つまり[[un+lock]+able]と分析されるわけです。

Q：二つの意味の違いは単語の構造の違いによるということですね。

A：その通りです。合成語以外の語形成については次回お話ししたいと思います。

Q：わかりました。では今回の内容に関連する書籍をご紹介願います。

A：はい。『英語語形成ルール・ブック』（改訂）、酒井玲子著、国際語学社（1999年）です。形態論の専門書ではありませんが、語形成のルールが示されており、語彙力と未知の英単語を推測する力がつきます。

今回の参考文献は本学の酒井先生の著作で、今までの様な解説書とは異なりワークブック形式となっており、自然に単語の感覚が身に付くようになっています。請求記号は830.79-Sakで、本館の第一閲覧室と第二閲覧室の卒業生が書かれた著作物コーナーに配架されています。この本は借り出しても良いですが、閲覧室に置かれているのを取り出して、空いている時間に利用し、使い終わったら元に戻すというのも一法です。図書館の書架を、自分の本棚とイメージしてみたいかがでしょうか。

にゅうがく なおや

（福井工業大学講師・英語学・英語史）

ふじい たつや（司書・係長・アジア関係図書館）